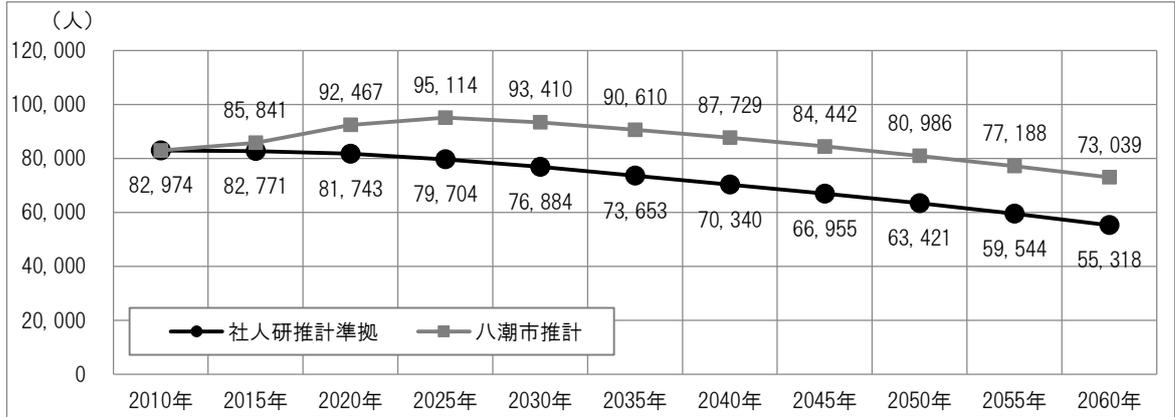


人口の将来展望

■ 人口の将来展望について

1. 将来人口推計

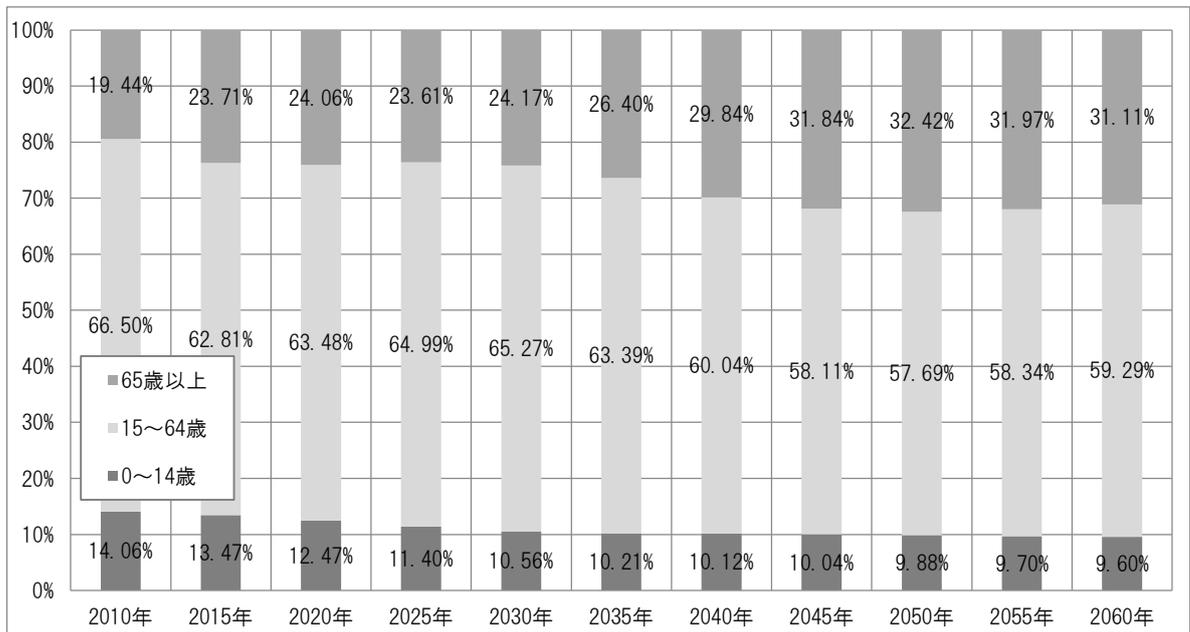
(1) 総人口の推計



※八潮市推計：「国立社会保障・人口問題研究所」の推計値に、八潮市で予定されている開発の計画人口を上乗せした推計値
 「国立社会保障・人口問題研究所（グラフ中：社人研）」の推計方法に準拠した方法で八潮市の将来人口を推計すると、2010年をピークに減少を続け、2060年には、約5万5千人になることが予測されている。

しかし、本市では、2005年のつくばエクスプレス八潮駅開業にあわせて進められている住宅地開発の影響により、2025年まで人口増加が続くものと予測される。

(2) 年齢3区分別人口比率の推計

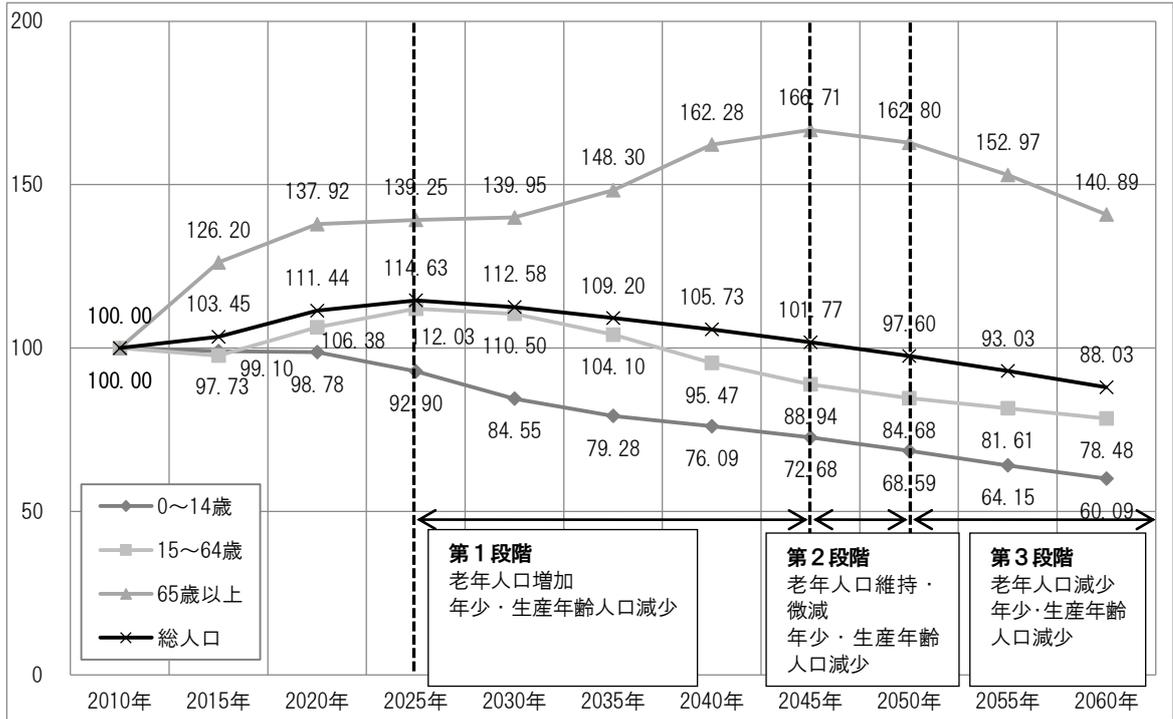


※八潮市推計値において、各年の開発人口の年齢構成は、開発地区への過去の転入実績に従って仮定している
 八潮市推計によると、2035年に高齢化率が25%を超え、4人に1人が高齢者となることが予測されており、その後はさらに高齢化が進行すると見られる。

また、年少人口の比率は、年々緩やかに減少すると見られる。

生産年齢人口の比率は、2060年には59.29%となり、生産年齢1.9人で1人の高齢者を支えることになると見られる。

(3) 人口減少段階の分析



※八潮市推計値において、2010年の人口を100とし、各年の人口を指数化したもの

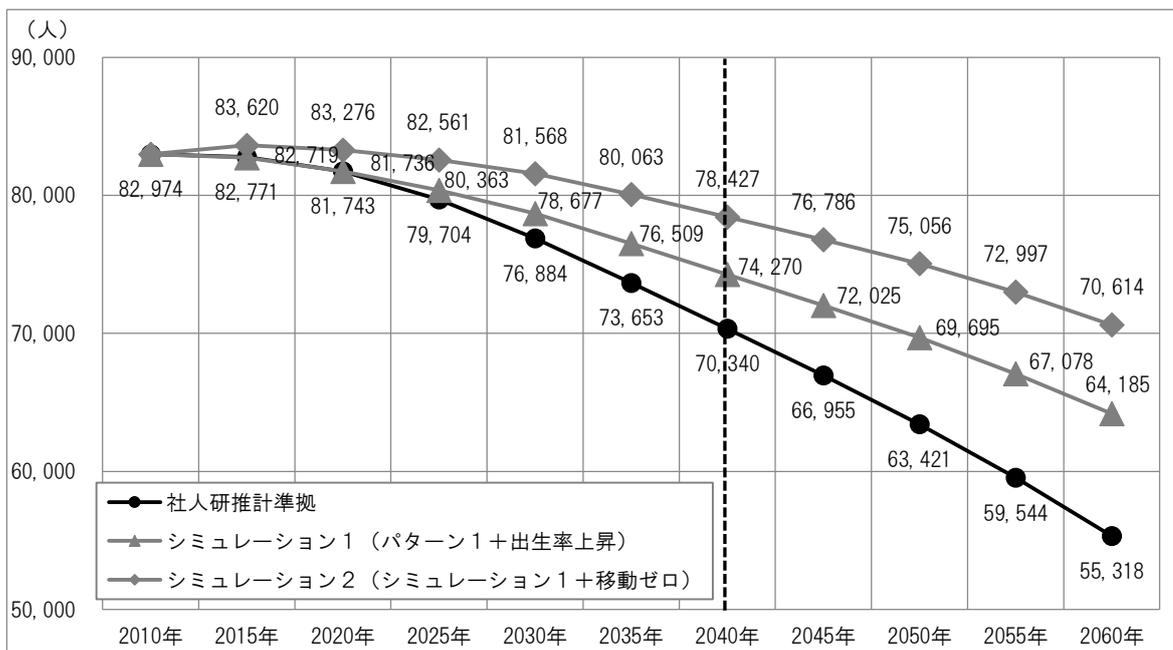
「人口減少段階」は、一般的に、「第1段階：老年人口の増加（総人口の減少）」「第2段階：老年人口の維持・微減」「第3段階：老年人口の減少」の3つの段階を経て進行するとされている。

八潮市推計によると、本市では、開発の影響からしばらくは人口増加が進むと予測されており、2025年以降に「第1段階」、2045年以降に「第2段階」、2050年以降に「第3段階」に入ると予測される。

また、2060年には、2010年と比較して、総人口が88%になると予測される。

2. 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

(1) 自然増減・社会増減の影響度の分析



※シミュレーション1：合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準（2.1）まで上昇すると仮定
 ※シミュレーション2：シミュレーション1かつ移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション1の2040年推計人口=74,270人 社人研推計準拠の2040年推計人口 =70,340人 ⇒74,270人/70,340人=105.6%	3
社会増減の影響度	シミュレーション2の2040年推計人口=78,427人 シミュレーション1の2040年推計人口=74,270人 ⇒78,427人/74,270人=105.6%	2

※上記計算方法により得た数値に応じて、自然増減・社会増減の影響度を5段階に整理
(自然増減:「1」=100%未満、「2」=100~105%、「3」=105~110%、「4」=110~115%、「5」=115%以上の増加)
(社会増減:「1」=100%未満、「2」=100~110%、「3」=110~120%、「4」=120~130%、「5」=130%以上の増加)
これまでの八潮市の人口動向をもとに、自然増減・社会増減の将来人口に及ぼす影響度を分析
するため、社人研推計準拠パターンをベースとしたシミュレーションを行った。
八潮市では、自然増減の影響度が「3」、社会増減の影響度が「2」となった。

3. 目指すべき将来の方向

人口動向の現状を踏まえ、本市では、以下のような視点に立った施策を展開することにより、暮らす魅力と活力のあるまちを維持していくことを目指す。

◇まちの魅力の創出・発信による着実な転入促進

本市は、つくばエクスプレス八潮駅の開業などの影響により、近年、20～40代を中心に幅広い年代で転入超過の傾向にあり、本市の活力を維持する原動力となっている。

よって、転入したくなるような魅力あるまちをつくり、まちの魅力を発信することで、今後も、着実に転入を促進することが重要となる。

◇子どもを産み・育てやすい環境の充実による少子化抑制

近年は、総人口で見ると流入超過の傾向が見られるものの、出生数や年少人口は横ばいで推移しており、少子化が進行している。

また、2013年の年齢別の人口移動をみると0～9歳の転出超過が目立つほか、つくばエクスプレス八潮駅の開業前10年間の年齢別の純移動数をみると、生産年齢人口が男女ともに転出超過の傾向にあるなど、子育て世帯が多く転出していることが懸念される。

よって、子どもを産み・育てやすい環境を充実することで、少子化を抑制することが重要となる。

◇住み続けたいくなるまちの実現による定住促進

つくばエクスプレス八潮駅の開業から10年が経過し、当初、転入してきた子どもたちも独立する時期を迎えるなど、転入世帯が新たなライフステージに移行しつつある。

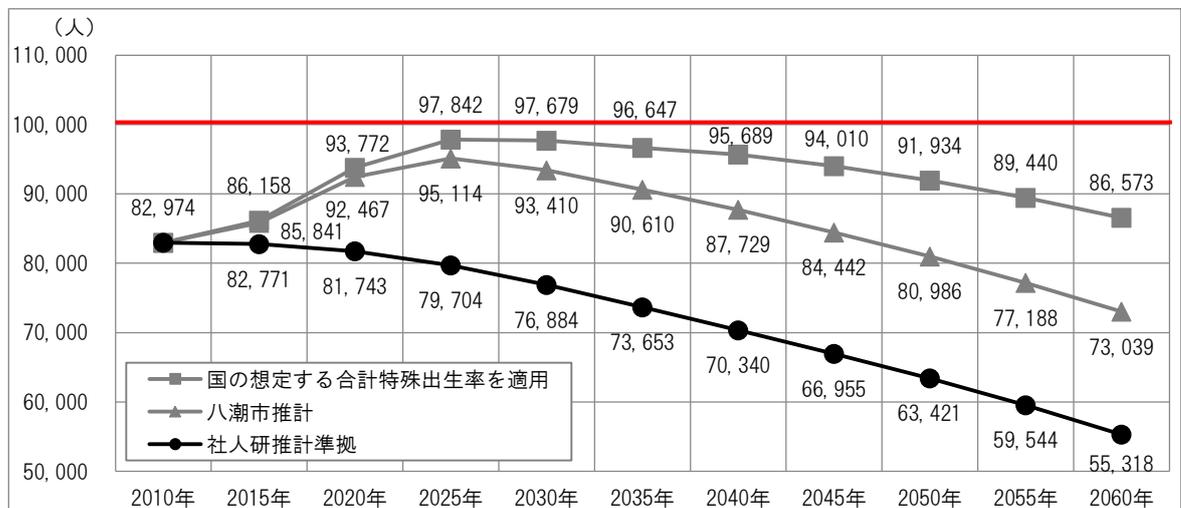
活力ある八潮市を維持していくためには、今後も、開発により転入した市民に世代が変わっても八潮市に住み続けてもらうことが必要である。

よって、市民生活における安全・安心の確保や、人々がつながりあう地域づくり等により、住み続けたいくなるまちをつくることで、市民の定住を促進することが重要となる。

4. 人口の将来展望

出生率の向上や転出抑制により、2025年に人口10万人を達成することを目指す。

(参考：国長期ビジョンで想定している合計特殊出生率を適用した際の将来展望の例)



※国長期ビジョンで想定している合計特殊出生率(2020年に「1.6」、2030年に「1.8」、2040年に「2.07」)まで上昇すると仮定(線形に上昇し、2040年以降は一定とした)

※将来展望においては、八潮市推計に対し、開発人口が定着したと想定し開発人口を推計の算定式に加え計算を行っている